

Mistake!

083. 〈rob A of B〉の謎と変遷

ギャングが銀行を襲って1000万ドルを奪った。

✕ **The gang robbed 10 million dollars of the bank.**

“rob”は、西暦1200年ごろの中英語(中期英語)にさかのぼります。原義は「衣類を略奪する」で、衣服が戦利品のなかでも重要な品だったことがうかがえます(“rob”は、「衣服/バスローブ」の意味をもつ“robe”と語源的に同根です)。

現在では、**rob A of B**(AからBを奪う)という形をとって、不法に(多くの場合、暴力や脅しなどを使って)人や銀行から金品を「強奪する/略奪する」という意味で用いられます。

○ The gang *robbed* the bank of 10 million dollars.

(ギャングが銀行を襲って1000万ドルを奪った)

この“of”は〈分離・除去〉(= off)をあらわし、「ギャングが銀行を襲って(The gang robbed the bank)、1000万ドルが引き離された(of 10 million dollars)」と説明されることが多いようです。

rob(強奪する)の仲間を眺めてみると、deprive(剥奪する)やclear(取り除く)などの“分離”や“除去”をあらわす動詞も“rob”と同じように、後ろに〈A(全体) of B(部分)〉をしたがえています。

“of”が「帰属」や「出所」を示すことから、属性関係を含意することはよく知られていますが、「BはAに属すべきもの」であれば、〈B(部分) of A(全体)〉の順、つまり〈rob B of A〉になるはずですが、しかし、そうはなっていません。

江川泰一郎は「いわゆる転移によって2つの目的語が入れ換わったのであろう」と推測し(『英文法詳説』金子書房)、小西友七らは「一

種の転置が働いて」、このような構文になったのだと述べています(『英語基本動詞辞典』研究社)。

これらの論拠はおそらく『オックスフォード英語辞典』(OED)でしょうが、そこでは、“rob”の目的語に人や場所(=全体)を置こうという気持からA(全体)とB(部分)が転移を起こして(in a kind of transposition)、〈A(全体) of B(部分)〉となったことを解き明かしています。

ところが、話はこれでおしまいではありません。近年、rob B from A(AからBを奪う)が容認されるようになったのです(『OED』によれば、古くはこうした用法もあったようですが、広く普及することはありませんでした)。

以下の英文をごらんください。

☑ The gang *robbed* 10 million dollars *from* the bank.

『詳説 レクシス プラネットボード』(鷹家秀史・林龍次郎/旺文社/2004)によれば、〈rob B from A〉を認めるアメリカ人がなんと85パーセント、イギリスで61パーセントもいるという報告をしています。

学校英語では現在、こうした用法を認めていませんが、まったくの誤用として扱うには問題がありそうです。少なくとも、「こうした用法を容認する英語母語話者はたくさんいる」ということを学習者には伝えておいたほうがよいと思われます。

ギャングが銀行を襲って1000万ドルを奪った。

○ **The gang robbed the bank of 10 million dollars.**

Mistake!

084. 〈favor〉の勘違い

(窓を閉めてほしいときに)

ちょっとお願いがあるんだけど。

? **Would you do me a favor?**

大学入試によく出る熟語のひとつに、**do A a favor** (Aに好意をほどこす) があります。また、このイディオムを使った、**Would you do me a favor?** (ちょっとお願いがあるのですが) は口語表現のなかでも最頻出であるとされています。

問題は、ささいなお願いをするときでも、“do me a favor” を使ってしまうことです。“favor” は「親切な行為/格別のはからい」です。つまり、“do me a favor” は、手間や面倒のかかる(ときに深刻な) ことをお願いするときに使う文句なのです。

A: Would you do me a favor?

(ちょっとお願いがあるんだけど)

B: Yes. What do you need?

(いいわよ。どんなこと?)

A: Could I borrow some money please?

(お金を借りられないかなと思って)

ささいな頼みごとをするときは、次のような表現を用います。

Would you do something for me?

(ちょっとお願いがあるんだけど)

“do something for me” という表現を使うのです。

1 | 8 | 2

A: Would you do something for me?

(ちょっとお願いがあるんだけど)

B: What?

(何?)

A: Go in the garage and get the toolbox.

(ガレージへ行って、工具箱を持ってきて)

あるいは、次のようにいうこともあります。

Do something for me, will you?

(ちょっといいかな?)

以下のやりとりをごらんください。

A: Do something for me, will you?

(ちょっといい?)

B: What?

(何?)

A: Close that window.

(そこの窓を閉めて)



(窓を閉めてほしいときに)

ちょっとお願いがあるんだけど。

 Would you do something for me? **Do something for me, will you?**

1 | 8 | 3